



赤磐

平成18年

3

月議会

# 市議会だより

No.4



## も く じ

平成18年度当初予算 .....	2P
3月議会のあらまし .....	5P
委員会のうごき .....	10P
18人の議員が一般質問 .....	14P

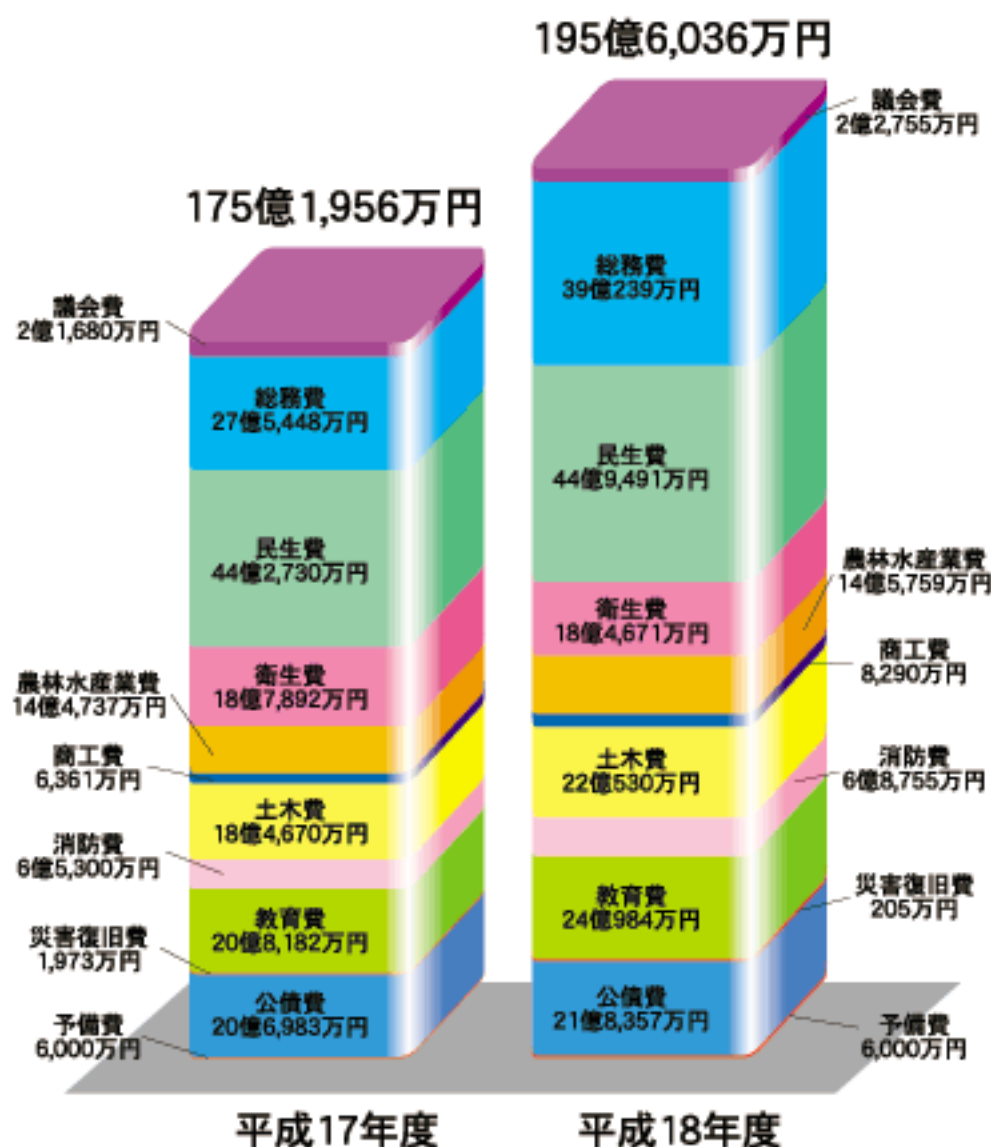
# 20億4,080万円増 (プラス11.6%)

給食センター統合にGOサイン

## 6,036万円 賛成多数で可決

### 歳出

平成17年度と平成18年度の比較



### 一般会計

平成18年度当初予算は「新生赤磐市において、新市にふさわしい公共サービスが提供できるような、分権型社会を視野に入れた経済性と効率性を求めたまちづくりを」(市長施政方針から)ということで、前年度より約20億4080万円(11.6%)増の積極予算となった。

特に長年の懸案であった図書館建設事業・グラウンドゴルフ場建設事業や山陽・赤坂給食センター統合事業などが今年度から予算化されたこと、小学校三年生まで引き上げられた乳幼児等医療費給付事業、道路改良事業、地域の一体感の醸成を図るための地域振興基金などが大きなウェイトを占めている。

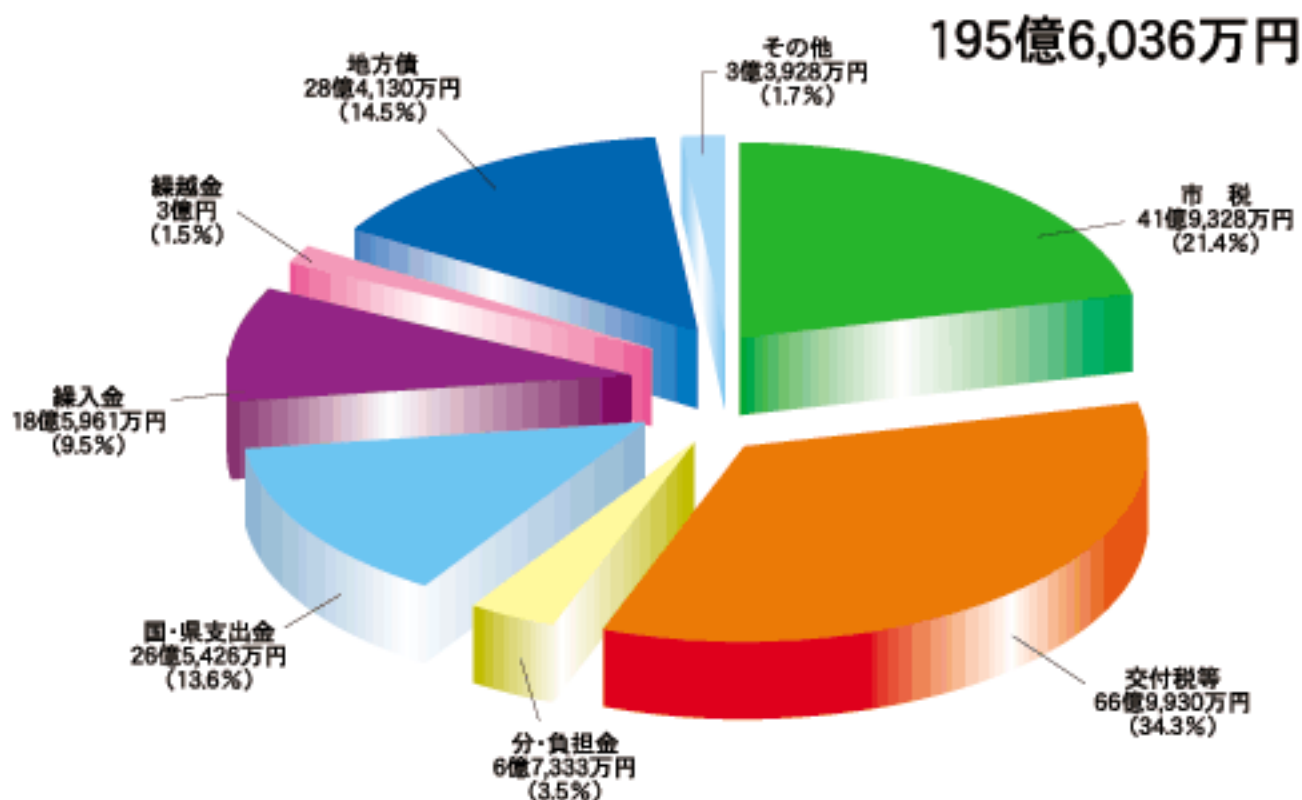
# 平成18年度は積極予算 前年度比

一転

## 図書館・グラウンドゴルフ場建設、 一般会計当初予算195億

### 歳入

平成18年度 歳入の状況



### 今年度の一般会計予算

## 市民一人当たり約43万円

今年度の一般会計予算規模は、195億6,036万円で、対前年度比は、20億4,080万円、11.6%の増となっている。

これを市民一人当たり換算すると、約43万円となり、前年度より約5万円の増となっている。

(注) 平成18年4月1日現在の本市人口は、45,545人

# 平成18年度の赤磐市の予算

## ■主な事業

事業名	事業額	備考
基金造成	14億 万円	合併特例債で地域振興基金を創設
乳幼児等医療費給付事業	1億1,317万円	給付対象を就学前から小学校3年生までに引き上げ(平成18年10月から実施)
給食センター統合事業	7,728万円	山陽・赤坂給食センターの統合(山陽給食センターの増改築等)
図書館建設事業	9,223万円	設計、山陽体育館解体工事
グラウンドゴルフ場建設事業	3億1,102万円	平成18年度完成予定

## ■会計別予算規模

会計名	本年度	前年度比較	
		増減	増減率(%)
一 般 会 計	195億6,036万円	20億4,080万円	11.6
特 別 会 計	155億2,087万円	1億2,408万円	0.8
国民健康保険特別会計	38億2,234万円	1億2,013万円	3.2
老人保健特別会計	43億5,164万円	△1億9,468万円	△4.3
介護保険特別会計	28億8,339万円	1億7,680万円	6.5
居宅介護支援事業特別会計	廃止	△2,845万円	皆減
訪問看護ステーション事業特別会計	1,670万円	5万円	0.3
簡易水道特別会計	4億5,256万円	4,267万円	10.4
下水道事業特別会計	38億6,754万円	331万円	0.1
宅地等開発事業特別会計	5,775万円	60万円	1.1
竜天オートキャンプ場特別会計	1,630万円	△188万円	△10.3
田原用水特別会計	349万円	1万円	0.3
土地取得特別会計	1,819万円	596万円	48.7
墓地事業特別会計	2,448万円	△61万円	△2.4
財産区特別会計	649万円	17万円	2.7
公 営 企 業 会 計	22億8,579万円	2億4,342万円	11.9
水道事業会計	14億3,714万円	2億4,419万円	20.5
熊山病院事業会計	8億4,865万円	△77万円	△0.1
合 計	373億6,702万円	24億 830万円	6.9

# 3月議会の あらまし

## 議案審議



NHKのど自慢

### NHKのど自慢で 赤磐市のPRを

問 NHKのど自慢の公開録画は、赤磐市にとってPRのできる絶好の機会である。

観光客を呼ぶためのPRを考え、働きかけているのか。

答 全国PRということ、できるだけ多くの観光客が来ていただけるように、赤磐市の紹介を現在NHKへ働きかけている。

全国に向けて赤磐市のPRを積極的にしていく。

### 熊山病院の 拠点性を 高めるために

問 総合計画基本構想の中で、病院を中核として市における保健、医療、福祉の拠点としての位置付けをしているが、医師会病院との関係はどうするののか。

答 熊山病院の拠点性を高めるため、現在熊山支所で行っている訪問看護ステーション事業を平成18年度中に市立熊山病院に移すことを検討している。

病院の看護師による事業が行われ効率化も図り、この地域での医療効果をさらに高めていく。

### どうなる JR山陽本線への バス路線

問 JR山陽本線の熊山駅を南の玄関口と位置付けているが、現状は瀬戸駅への利用が多い。利便性をどう考えているのか。

答 現在瀬戸駅へ乗り入れているバスが、桜が丘からの1路線のみである。他の地域からの直接乗り入れはない。赤坂、吉井地域から要望も出ている。市としてバス事業者へ既に申し入れをしている。

### 電子自治体の 構築とは

問 電子自治体の構築とは、どのようなものか。

答 インターネットの環境を利用し、わざわざ市役所に向かなくても手続が行えるサービスを充実していくことである。県では電子自治体推進協議会として、県下全市町村が協力して電子申請の普及を行っている。市としても歩調を合わせて進めていく。

3月定例会を、2月27日から3月22日まで、24日間の会期で開催した。承認案件1件を承認、議案93件、議員発議の意見書2件を可決、また、請願5件のうち2件を採択、2件を不採択、1件を継続審査とし、人事案件6件及びその他案件2件を審議した。

## 辺地対策事業債

**問** 市内で辺地は何力所あるのか。

また、辺地対策事業債というものは、どういう扱いになるのか。

**答** 辺地に該当する集落等は、現在赤坂地域に1カ所、熊山地域に2カ所、吉井地域に14カ所の合計17カ所である。

辺地対策事業債は、事業費への充当率が100%

、元利償還に要する経費のうち、80%が交付税措置される。

辺地と他の地域との生活水準の格差を是正するための措置として、大変有利な起債である。

## どうなる 敬老会助成金

**問** 1740万円の助成金については、合併により対象年齢「75歳」以上、1人当たり「30000円」となった。各地域で不満の声を聞くが予算にどのよう反映されているか。

**答** 補助金が全市統一され、区長・町内会長会議で、事業説明や、地区での個別説明会等を行った。その中で意見も聞き、地域住民の交流が大切なので18年度も同様に考えている。



敬老会

## 各種委員報酬の基準は

**問** 国民保護協議会委員、名誉市民選挙委員会委員、介護保険事業運営協議会委員は、日額6500円、障害者自立支援審査委員会日額1万2000円となっている。

報酬の算出は、何を基準に設定したのか。

**答** 国民保護協議会委員は、特に資格を必要とす

るものでなく、名誉市民選挙委員会は、選挙する必要がある場合のみである。

介護保険事業運営協議会は、介護保険法の改正に伴い、平成18年4月から新たにはじまる地域包括支援センターの運営や地域密着型サービスの指定などを協議していく。

障害者自立支援審査委員会は、臨時職員が行った住宅・施設の方の調査をもとに対象者の認定を行うものである。

委員の選考については介護保険と同様、医師や施設の関係者であり、知識を有する者である。報酬は、介護保険認定審査会委員と同額にした。

## 地域振興基金とは

**問** 地域振興基金と他の基金との違いは何か。

**答** 合併特例債は、大きく分けて建設事業と基金造成の2つの用途に分かれる。

地域振興基金は後者で、合併後の市町村振興のために造成する基金である。

合併によって地域の活力が失われないよう、地域振興や地域住民の一体感を醸成するソフト事業を行うための基金を積み立て、その運用益を財源に充てるものである。

## 保育料 未収金対策は

**問** 保育料の未収金対策はどのようにしているのか。

**答** 本庁、各支所で督促や訪問を行うなど、微収に努力している。

現在の滞納額は、1395万円である。現年度分に限ると、99・4%の収納率である。

## 配食サービス 事業効果は

**問** 配食サービス事業委託料について、旧町の単価は統一したのか。

また配食サービスの事業効果についての評価をしているのか。

**答** 配食サービスは、市が業務委託をしている事業者への希望に合わせて夕食を注文し、配達を受けている。市は配食事業者に1食当たり250円の統一単価で配達料の支払いをしている。

現在、山陽地区が119名、赤坂地区が13名、熊山地区が10名、吉井地区が41名の合計183名が登録をし、利用されている。

今後民生委員の方にも協力をいただきながらPRに努めたい。

## 人権啓発事業

**問** 人権啓発予算が、対前年度と比較して減額になっているが、どうか。

人権啓発事業と隣保館運営事業を計上している。減額については、隣保館運営事業の人員費の減である。

人権啓発事業費は前年度より増である。また、本年度は県から人権啓発

活動地方委託事業を受け、この事業費が含まれている。

委託事業として人権ボスターの作成、標語、作文募集を予定している。また、市内全戸に啓発カレンダーの配布を予定。講演会の開催、啓発のリード、人権相談も予定している。



人権を考えるつどい

## 農業生産組織 へ助成を

**問** 新規営農事業の内容はどうか。

**答** 本年度は5団体、金額的には50万円である。特に新規作物の導入や、新しい技術の導入などを積極的に調査・研究また、実施する生産組織への助成に力を入れた。マスカット種無し栽培研究、ハウス抑制キュウリの栽培研究、新しいイチゴの通年栽培などバイオニア

的生産組織を育成したい。

## 都市計画マスタープラン

**問** 計画場所、計画推進について具体的に説明せよ。

**答** 現在都市計画区域は、旧山陽町全域と旧熊山町の桜が丘東地域の範囲で市域全体面積の約4分の1弱である。

平成18年度と19年度の2力年で計画の策定を予定している。

18年度は現状の分析、主要課題、将来目標の整理、19年度は全体の構想、地域別構造の設定を計画している。

## 固定資産税

### 旧町間の調整は

**問** 今年度は、固定資産の評価替えの年である。今回4町が合併した中で、旧町のバランスをどのようにとったのか。

**答** 旧町間の評価のひずみが出ないよう鑑定士が調査すり合わせを行い、価格決定を行っている。

今年度の改正は、平成17年1月1日現在の価格であり、鑑定評価に基づき旧町で評定された評価額である。

## 防犯灯 旧町間の取り扱いは

**問** 防犯灯の設置、管理の旧4町間の取扱いはどうか。

**答** 防犯灯の設置、管理については、旧町単位で取り扱いが異なっており、

平成17年度に調査し、管理区分を検討し、市と各地区での調整を行っている。

その管理区分に基づき、市の管理する道路上の防

犯灯については、工事費、電気料金等は市の負担で行う。十分に調査し、漏れのないようにやっている。

区で管理している農道等道路の防犯灯は、補助金を利用して設置し、電気料金、修繕料等は区の負担となっている。

## 下水道事業特別会計予算

**問** 山陽処理区の公共下水道事業の今年度予算は、約9億円の減額になっている。

今後、財政状況が厳しくなるが、予算の見直しはどうか。

**答** 下水道事業特別会計予算全体では前年並みである。

公共下水道事業費については、前年度比較約9億円程度の減で編成をしている。この減額は、主

に山陽浄化センターの根本的施設の建設終了によるものである。

下水道は公共水域の水質保全等の効果が高く、住民アンケート調査でも優先すべき事業であると認識している。

赤坂地域も含めた下水道整備計画については、現在策定中の赤磐市総合計画の

実施計画との整合性

を保ちながら、市民が公平に下水道の恩恵を受けられるよう、早期の事業推進を行う。



山陽浄化センター（立川）

## 特別委員会を設置・再編しました。

### ●交通問題調査特別委員会を設置

【目的】 交通問題等全般に関する審査及び調査

【委員定数】 15人

【委員】

委員長	梶野 志郎	副委員長	萩田 敏正	委員	山田 秀士	委員	藤田 圭右
委員	海野 雅之	委員	西山 和嘉	委員	実盛 祥五	委員	佐藤 武文
委員	福木 京子	委員	小引 美次	委員	山下 浩史	委員	井上 稔朗
委員	北川 勝義	委員	小倉 博	委員	松田 薫		

### ●下水道整備等調査特別委員会の定数を変更

交通問題調査特別委員会を設置したことに伴い、下水道整備等調査特別委員会の定数を変更し、委員を新たに選任しました。

【委員定数】 15人

【委員】

委員長	黒崎 明	副委員長	下村 脩	委員	実光 守	委員	森 重信
委員	海野 雅之	委員	羽原 章	委員	小田百合子	委員	武本 一郎
委員	下山 哲司	委員	岡崎 達義	委員	佐藤 武文	委員	小引 美次
委員	川澄 章子	委員	北川 勝義	委員	大口 浩志		

### ●議会広報編集特別委員会の定数を変更

交通問題調査特別委員会を設置したことに伴い、議会広報編集特別委員会の定数を変更し、委員を1人新たに選任しました。

【委員定数】 8人

【委員】 藤田 圭右



# 人事案件

次のとおり、適任、推薦、同意しました。

## 人権擁護委員

勝山 秀世（可真上）  
井上 和也（黒本）  
羽原 健（和田）  
河本 昌慶（周匝）

## 農業委員会委員

藤原 克己（沼田）  
藤原 孟浩（小原）  
岡野 進（吉原）  
岡森 裕幸（周匝）

## 教育委員会委員

花田 文甫（高屋）  
金光 久子（可真下）

## 請願

長島・光明の八病療養所を地域に開かれた医療・福祉施設として  
存続・発展させることを求める請願書  
《継続審査》

【請願の要旨】  
存続・発展が入所者の療養権・生活権を保障し労働者の雇用を守  
ることにつながる。関係機関に働きかけること。

共謀罪の新設について慎重な国会審議を求める請願 《採 択》

【請願の要旨】  
共謀罪の新設を含む刑法等の一部改正案が国会で継続審議となっ  
ている。基本的人権に影響を及ぼさぬよう慎重な審査を国に求め  
る。

高金利引き下げに関する請願 《採 択》

【請願の要旨】  
現在の市中貸金業者の金利は、市場金利に対してあまりに高利で  
あり問題が生じている。引き下げを国に働きかけること。

単県医療費公費負担制度の見直し（案）の撤回の意見書提出を求  
める請願書 《不採択》

【請願の要旨】  
庶民生活に密着したこの制度の見直しをわずか2カ月で強行する  
ことに反対であるので果に撤回を求めること。

介護保険料の大幅引き上げをやめ、市独自の減免制度の創設を求  
める請願 《不採択》

【請願の要旨】  
料金は旧熊山町（月額基準額3358円）を参考にし、また住民  
税非課税者を対象に減免制度を導入せよ。

【賛成討論】川澄章子議員  
市民の負担増が軽減されるのでこの請願には賛成である。

## 意見書提出

共謀罪の新設について慎重な国会審議を求める意見書

【意見書の要旨】  
共謀罪の新設にあたって、適用範囲をテロ・内乱等の組織的犯罪  
行為に限定し、自由・人権が侵害されないよう慎重な国会審議を求  
める。

【意見書の提出先】  
内閣総理大臣、法務大臣、衆議院議長、参議院議長

高金利引き下げに関する意見書

【意見書の要旨】  
利息制限法の制限金利・出資法の上限金利を引き下げ、みなし弁  
済規定・日掛け金融等の特例を廃止するよう求める。

【意見書の提出先】  
内閣総理大臣、総務大臣、法務大臣、財務大臣、内閣官房長官、  
金融庁長官、衆議院議長、参議院議長



NHKのど自慢

# 総務 常任

# 委員 会

3月10日に総務常任委員会を行った。  
議案27件、請願1件について審査した。

## のど自慢で 市のPRを

**問** のど自慢の放送の際、赤磐市のPRをしていた。  
**答** NHKとの打ち合わせもこれからだ、積極的にPRに努めたい。

## 交通問題 対策費を計上

**問** 企画費の生活交通対策調査委託料は交通問題調査の費用か。  
**答** 赤磐市全体の広域交通網を考慮するため、市民に交通体系アンケートをする費用である。

## 地域振興 基金を創設

**問** 基金運用について国債を購入して有効な運用はできないか。  
**答** 地域振興基金条例で、基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券にかえることができるようになっており、今後検討したい。

## 税徴収員 増やしては

**問** 税の徴収員を増やす考えはないか。  
**答** 徴収員を今後増員したい。滞納は税だけでなく、保育料、水道料もあり、滞納管理システムとリンクさせ一覧表でわかるように対応する。

## どうする 防災無線

**問** 防災無線の赤坂、山陽地域は個別受信機がないが、どうするのか。

**答** 吉井地域は、電波が届きにくいところがあり、個別で対応しているが、1戸当たり10万円かかり、市全域だと14億円かかる見込みなので、個別受信機は、財政的にむずかしい状況である。



防災無線個別受信機（吉井）

## 竜天オートキャンプ場 県から移管

**問** 平成18年4月から県から市へ移管される。経営状況が厳しいことは、県も把握している。補填をお願いしてはどうか。

**答** 経営状況については、毎年県に報告している。施設の修繕も要望している。

## 新年度から政務調査費を交付

政務調査費については、議会運営委員会、議会全員協議会で議論をしてきたが、過去の経過から議員全員が了解している。

市民の貴重な税金を使わせていただくという意識をもって議会活動を行っていく。適用範囲については、議決後に慎重に協議していくことになった。

# 厚生常任委員会

## 委員会

3月13日に厚生常任委員会を行った。  
議案27件、請願4件について審査した。

### 乳幼児医療費給付に関する 条例の改正

**問** 就学前まで無料であったものが、なぜ自己負担が必要になるのか。  
**答** 持続性を果たせる少子化対策、他の医療費扶助との負担の公平を考えた。県の負担制度と合わせた。

**問** 市独自の制度として給付対象を小学校3年生までに引き上げた。

**問** 18年10月1日から施行なのに、なぜ今回改正案を出すのか。

**答** 市民への周知期間と困保連合会との支払いシステムの関係で、時間を要する。



医療給付が小学校3年生までに

### どう対応 障害者 自立支援法

**問** 障害者自立支援について、PRの方法はどうするか。

**答** 現在利用している方には、手続の申請用紙を配布して説明し、広報でも周知している。

**問** 相談窓口は手話通訳者の配置は実現できるか。  
**答** 手話奉仕員養成事業の予算を計上しており、5月から20人程度の研修を行う。

### 介護予防高齢者施策事業

**問** 事業の内容は何か。

**答** これまでの、山陽のミニデイサービスと、赤坂・吉井のいきがい通所事業を統一して実施するもので、介護保険の認定を受けていない特定高齢者が対象になる。

10月からは、特定高齢者としての認定を受けた人しかサービスは受けられなくなる。

**問** 配達するに当たり、距離のことも配達料金に

**配食サービス事業委託料**

**問** 社会福祉協議会が実施しているデイサービスの給食費は、旧地域で違う。統一すべきではないか。

**答** 配慮する必要があるのではないかと。  
**問** 山間地など採算が合わず業者からの不満もある。新年度に検討する。

**答** 社会福祉協議会に対し、今後料金統一を要望する。



生きがいサービス

### 市立熊山病院の補正予算

**問** 市立病院への負担金の内容は。

**答** 入院患者及び外来患者の減により病院事業収益が落ち込んだので、赤字補填をするものである。

**問** ジェネリック医薬品の使用比率があまりにも低い。使用比率の引き上げを考えないのか。

**答** 病院の損益を考えると、ジェネリック医薬品を使うと収益的には下がるが、今後改革すべきところはしていきたい。

# 産業建設 常任

# 委員会

3月14日に産業建設常任委員会を行った。  
議案42件について審査した。

## 英国庭園は市の直営

**問** 熊山英国庭園の条例改正について、運営は市の直営でありながら、地元に管理をお願いするのはか。

**答** 条例の改正は指定管理か直営の2つで、直営を選択している。

直営の管理は、一括して地元委託するのはなく、部分的な作業を地元にお願ひし、市から賃

金を支払う。必要経費も市が支払う。

**問** パーラー等の引継ぎができていないと来場者に迷惑をかけるがどうするのか。

**答** パーラーを利用する方もいるので、今まで動めていた地元の方で対応する。

## 繰越明許

**問** 国・県補助事業で既に着手している工事の繰り越しなら理解できるが、単市事業で、小規模工事まで繰り越しし、完成が18年11月になっているものもある。予算の組み方がおかしい。

**答** 繰り越しは6月までに完成させるべきである。遅くとも6月までに完成しないとおかしいと思う。

繰り越しは補助事業で、やむを得ない場合行うもので、市単独事業はやらないのが基本と考える。内部で調整し報告する。

## 読書公園用地 借上げ単価は

**問** 多賀読書公園用地をなぜ10数年も借上げているのか。

**答** 単価もかなり高い。東野部読書公園用地の借上げ単価と統一すべきではないか。

**答** 大和ハウス工業の誘致のため、50haもの山を

造成したが、環境アセスの協議の中で、4haの緑地保全のため公園を整備した。

単価は買収単価を基準に算出したが、高いとの指摘があったので、18年度中に地元と協議する。

## 都市計画マスタープラン 作成委託料とは

**問** 委託料の520万円と都市計画基礎調査委託料427万円は何か。

**答** この計画は総合計画の下部計画にあたり、18、19年の2カ年かけて都市計画区域を中心に行うが、市全体の位置付けも念頭におき、調査作成する。

**問** 総合計画の基礎データがある業者が、都市計画マスタープランを作成するのなら、委託料が高いのではないか。

**答** 委託にあたっては十分検討する。パターンにはめた計画でなく、地域にあった計画になるように研究する。

## 吉井地域の 雨水対策

**問** 吉井地域の雨水対策工事にいくらか計上し、どこまでできるのか。

**答** 工事費と設計費の1億400万円で、18年度にポンプを設置する施設と水路を整備する。

19年度の梅雨時期までにはポンプを設置したい。

**問** 発注者は市であり、委託先である日本下水道事業団に対し地元業者を工事指名するように指導できないか。

**答** 発注に当たって市の意向を組み込むように事業団に申し入れる。

## 一口メモ

### 繰越明許費

繰出予算の経費のうち、その性質上又は予算成立後の事由により当該年度内に支出を繰らない見込みがあるものについて、予算の定めるところにより翌年度に限り繰り越して使用することができるものをいう。通常は年度末に補正予算の形で提案される。



熊山英国庭園パーラー（奥付）

# 文教常任委員会

## 3月9日に文教常任委員会を行った。 議案4件について審査した。

### 市内図書館 カード統一へ

**問** システム統合による利用者のメリットは何か。  
**答** 1枚のカードで市内全ての図書館が利用できる。  
また、市内4図書館の間での資料の検索ができ、インターネットでの蔵書検索も一度にできる等のメリットがある。

### 中央図書館 建設に向けて

**問** 建設予定地の体育館利用者や、地元への説明はできているのか。  
**答** 利用者の方への説明は、代表者会議を開催して行った。  
地元地区に対しては、建設スケジュール及び地元関係の運動会等、施設利用について説明した。  
施設の利用は9月末まで許可しており、それ以降は他の施設を利用していただくようお願いしている。

**問** 測量設計委託料7200万円は何か。  
**答** 解体工事及び本工事の測量設計業務であり、積算根拠は全体工事見込額の5%を計上している。

**問** 解体する体育館は歴史と思いのこもった建物である。建設当時の蓄意に報いられるよう十分に配慮すべきである。  
**答** 山陽体育館は寄付によって建てられている。よく考慮し全体写真を撮影、後世に残る部材があれば検討し、保存する。

### グラウンドゴルフ場建設 コスト・財源は

**問** 収支の見通しはどうか。  
**答** 早期に管理形態を定め、使用料を設定し、運営形態を検討、将来的収支計画を示す。

**問** 低コストの設計をし、予定価格を公表して入札すべきではないか。  
**答** コスト削減に最大限努力していく。  
予定価格は公表する。

**問** 財源はどうか。  
**答** 合併特例債2億9520万円とふるさとづくり基金1000万円を充当する。

### 山陽郷土資料館 改修工事は

**問** 改修工事の内容は何か。  
**答** 屋根の軒がコンクリートの劣化により落下している。  
落下を防ぐ工事と併せて、来館者が受付まで車椅子で入れるためのバリアフリー対策及び安全確保のための手すりの改修工事を実施する。

### 吉井給食センター

**問** 測量設計委託料675万円の内訳は何か。  
**答** 吉井給食センター設計委託料600万円、山陽給食センター改修工事監理料が75万円である。

**問** 吉井給食センターの建設場所と整備内容はどうか。  
**答** 旧吉井町で検討していた場所を案として示した。建設場所・整備内容等はこれから検討していく。  
十分協議、説明を行い進めていく。



図書館カード



山陽郷土資料館（下市）

# 一般質問

## 市の考えを問う

18人の議員が登壇し市の考えをたどしました。

一般質問のページは質問した議員本人の原稿に基づいています。



**問** 全地区へ職員を派遣して新しいまちづくりをせよ

**答** 市民協働のまちづくりを積極的に取り組みたい



佐藤武文議員

**問** 4町が合併して1年が経過し、地域住民の融和はどのように図られたのか。まちづくりについて、市民の要望は反映されているのか。

職員は、市民ともっと身近になるべきである。

全地区に職員を派遣し、伝統文化の継承・活性化事業の創設などさまざまな情報の収集を行うべきだ。

特に職員の意識改革を行い、快適なまちづくりを実現すべきではないか。

**答** 平成18年度は合併元年ととらえ新生赤磐市を掲揚していきたい。

地区の窓口を担当職員を配することは、直接住民の意見・要望の権に把握でき、市民協働のまちづくりを行うために有意義である。

事務量の増加や社会の

変化等により、大切な住民との距離が離れてきたような感じがする。

**答** 公共施設の維持管理に必要な公益費を入居時に負担し、積立金としていた。西地域は、12年度になくなっている。

桜が丘地域の維持管理費を補填すべきでは

集会所・公園・防犯灯などの維持管理は、町内の負担となっている。補填について、方法論を検討したい。

**問** 桜が丘地域へ入居の際、ダイワに対し公共施設の維持管理費を納入していた。この管理費が西地域はなくなると聞いて

すべての公共施設等が、ダイワから市へ移管されることに関連し、町内会の運営に支障とならないよう、



桜が丘地域

### 表紙のひとこと 景観は、さながら『桃源郷』

山陽地域（西山地区周辺）に広がる桃畑では、毎年4月上旬になると一面ピンク色に染まる景色が見られます。その景観はさながら故事に出てくる『桃源郷』のようであり、100年以上受け継がれた栽培の歴史の、堂々とした風格が感じられます。また、巨大な桃のガスタンクを見ることがもできます。

**問**

偽装・改ざんのチェックは

**答**

方法を今後検討

**問** 耐震偽装事件以来、検査機関への不信が募っている。赤磐市でもダイオキシン、射撃場の鉛弾、アスベストと多くの測定検査が外部委託されている。

大臣の指定検査機関での検査が義務付けられているものなどについては、偽装・改ざんのメリットはなくありのままの数値で報告されていると思う。

**答** データの信憑性を確かめるためには、複数の検査機関によるチェックや、検査機関を変えるなどの措置も必要ではないか。

同一の検査機関に継続して委託しているような場合は、実施状況についてチェックが必要と思うので取り組み方法を今後検討する。

**答** 法により、厚生労働



小田百合子議員

**答** 安全で安心なまちづくりに必要なものについては、予算の要るものは計上して、要望に応えたい。

**男女共同参画の推進状況**

**問** この1年でどれだけ事業をしたか。また女性を管理職に登用できたか。採用は増えたか。実績・今後の予定・目標もあわせて述べよ。

**答** 啓発事業として地域フォーラムを実施した。共同参画ネットワーク登録団体の募集もしている。17年度は、管理職への女性の登用はなかった。

総合計画にも盛り込み数値も示している。今後もしろんな角度から早期に積極的に取り組んでいきたい。

**問** 市の中心へ公共施設を集約すべきではないか

**答** 警察署の移転を強く要望する



縦野志郎議員

れば用地の選定等も協力する。

**問** 来庁者の車がおけるように職員の有料駐車場を整備すべきではないか。

**答** 約3000㎡の田んぼを借りて有料の職員駐車場を整備する予定である。

**問** 将来のまちづくりを考えたときに、熊山に県の工業団地を造ってもらい、そこにみのある産業に移転していただき、その跡地に警察署、集配郵便局、税務署さらに余裕があれば瀬戸高校もぜひ誘致していただきたいがどうか。

**答** 郵便局と税務署については今のところ移転の計画はない。警察署については赤磐市への移転を強く要望する。もしも警察署が移転できるのであ

**問** 図書館建設に当たっては、談合阻止の意味からも入札の前に予定価格を公表したり、指名競争入札ではなく、一般競争入札にすべきではないか。

**答** 談合のできない入札を検討する。予定価格の事前公表は7月から実施予定

である。予定価格は、行財政改革に配慮し適正に定める。一般競争入札は資格審査等が大変なので検討したい。

**問** ふれあい公園は、毎年1億数千万円の赤字だが、温水プールだけでも民営化できないか。

**答** ふれあい公園等も民営化を考える時代認識を持っている。課題も多いが民営化が良いのか直営が良いのか、もう少し研究をさせていただきたい。



男女共同参画地域フォーラム

**問** 鉛、ダイオキシン等々、人の命に係わることに付いては、6月議会までに十分検討してダブルチェックの予算を補正予算で上程されることを要望する。



赤磐警察署



実盛祥五議員

## 問 熊山駅前開発を

## 答 必要不可欠な重要課題

**問** 熊山駅は、赤磐市にとって大事な駅である。駅前広場や駐車場の整備について、市長はどのように吟味しているか。

**答** JR熊山駅は、市内唯一の駅であり、南の玄関口と考えている。熊山駅周辺の整備は、必要不可欠な重要課題と

考えている。具体的な内容としては、バス等の大型車両の乗り入れ、送迎車両のスペースの確保、駐車場の整備、観光案内所の設置、特産物の販売レンタルサイクル等が考えられるが、今後利用者の意見等も参考に積極的に取り組む。

**問** 上水道、下水道設計を一括して開発公社へすべて市発注しているが、市長はどのように吟味しているか。

**答** 県開発公社は、産業及び生活の基盤の整備充実、産業の振興並びに地域の開発、発展を図る上に必要な事業を推進することにより、県経済の伸長と県民福祉に寄与することを目的に出資設立した公益法人である。

公共の土木、建築の設計、工事費の積算及び工事管理業務に精通し、専門的な知識と豊富な経験を有しており、公平な立場から業務を遂行できること、また、



JR熊山駅

国土交通省から公共工事に係る監督、検査の充実については、一定の技術力を保持する技術者を保有し、公正な立場から支援が期待できる法人等の外部委託を積極的に活用するよう通知があったこと、さらに、技術職員の育成に係る時間的な問題の解消とその削減ができ、少人数で多くの事業が実施可能となることから、現在公社に委託している。今後は合併により町から市に移行したことなどにより、専門職の育成や民間力の活用も視野に入れ、検討したい。

## 問 集落営農の確立を

## 答 一定の方向を出していく

**問** 中山間地域の水田は耕作者の高齢化により、農地の荒廃が進んでいるが集落共同体意識から何とか荒廃化は避けられてきている。

数年前には急激な荒廃化が進むと考えられるので、行政が地域に向き、先導して地域に合った集落営農を確立させたい。

**答** 赤磐市として集落営農組織の育成を中心に考えたいと思っている。認定農業者、集落営農だけでは地域的に無理な場合も考えられる。

平成18年度に赤磐市内の農家アンケートを予定しており、農家の意見も参考に検討し一定の方向を出していきたい。

**問** アンケートの実施をする前に、農業公社、集落営農、後継者育成援助などの分かりやすい説明会をして欲しい。

**答** 前もって説明してかというが、逆に農家の皆さんが今どのように取り組まれているか、どんな考えを持っているかを受けるアンケートをした

**問** 農地保全等の相談窓口を農地保全等に相談窓口を

**問** 農業振興全般に意欲的に取り組んでもらえ、気軽に相談でき、指導のできる窓口は作れないか。

**答** 現在産業振興課及び各支所の産業建設課が、農業振興施策全般の業務を行っているので、新たな部署は必要ない。



西山和嘉議員



熊山駅前芝野農協



## 問 農業後継者・担い手対策はあるのか

答 集約・大規模農業経営等を取り入れ推進する



荻田敏正議員

農業の空洞化が心配される。

市として、今後何をどう取り組んでいくのか。

また、市活性化の一環として、「道の駅」を交通量の多い吉井線の沿線に建設するつもりはないか。

問 市長は、農業は赤磐市の基幹産業であると位置付けているが、少子・高齢化による、担い手・後継者不足と減反施策の後遺症により、ますます遊休地や荒れ地が拡大し

答 農業の担い手を確保するには、集約・大規模農業を取り入れることや、高齢化に対応した少量多品目、軽量作物の栽培を推進し、地産地消に取り組んでいく。

## 通学安全マップの作成を

問 最近、子どもの生命が奪われる事件が多発し

通学安全マップ

ている。子どもの安全を確保するため、通学安全マップの作成やスクールバスの児童・生徒の乗車拡大を図るべきと思うがどうか。

答 安全マップは、市内の小・中学校で作成配布済みのところと、作成中のところがあるが、今後は、作成配布できるように指導する。

スクールバスについては、通学距離だけでなく、安全の観点も加味した対応を検討する。

## クレール射撃による堆積鉛弾の撤去を

問 高倉山クレール射撃場が平成17年12月31日をもって閉鎖されたが、約500tもの鉛弾が、大谷川の谷周辺に堆積されたままになっている。撤去すべきと思うがどうか。

答 鉛弾の撤去はできないが、西山殖林組合に年2回の水質検査と土壌分析を行うよう指導する。

## 問 新市の総合計画及び行財政改革実現の意欲を問う

答 市民と行政が協働してまちづくりを進める



森 重信議員

問 市の主人公である住民のまちづくりへの参画は欠かせないが、要は行政である。市長を先頭に職員が一丸となり全力で取り組むことが肝要である。

事業の企画・立案・実施・検証等市民の行政への参画機会はどのようにするの。

答 市民主体のまちづくりを推進する上で、施策の立案から評価の段階で市民の参画と協働を促進していくことが重要。方策として各種審議会等への公募委員の登用、両計画で実施したパブリックコメントを積極的に実施し、市民と行政が協働してまちづくりを進める基本方針となる「まちづくり条例（仮称）」の制定をしたい。また市民の参画協力が一層得られるよう広報紙・ホームページ等により情報提供に努め、情報の共有をし理解を深めてもらう。

問 職員の意識改革、士気の高揚のための方策はどうか。

答 両計画を着実に推進していくため、職員の力量が大きく影響する。全体の奉仕者としての自覚を持ち、やる気を醸成し、



総合計画・行財政改革大綱

人材育成をする。政策課題研究、職場研修、派遣研修等々各種研修の拡充、体系化をし、効率的な研修機会の創設に努める。

また職員の専門的技術、政策能力の向上、職場の活性化、行政情報の収集のため、県をはじめ他の行政機関との人事交流を図る。また施策やアイデアを行政に反映できる職員提案制度を設け、企画立案意欲と組織の活性化につなげたい。

## 問 農業振興具体化を

**答** アンケート実施で農家の意向をさぐる



羽原 章議員

**問** 「田んぼは消ゴムで消せない」今後水田農業をどう進めるのか。

**答** 水田の多面的機能も考え、19年度からの国の米政策に向けて市の施策も十分検討したい。

**問** 市としての独自施策、条件整備の指針、具体化が見えないがどうするか。

**答** 荒地・大規模化・集落営農など課題が多い。まず18年度にアンケートを実施して農家の意向を確かめたい。

**問** 伝統ある生産組織を大切にしたいが対応はどうか。

**答** JAの部会を中心に考えており、新規作物、技術研究には助成する。

## 安全点検と整備 県道岡山吉井線

**問** 町内田内の信号機の待ち時間が延びて、通学路・生活道路への車両進入が増え危険度が増した。交通事情の改善対策はどうか。

**答** 規制など地元の要望に基づき整備を進め、個々の安全対策については、担当者を派遣する。

**問** 渋滞の抜本的解決には道路構造の結節改良しかないが、今後の対応はどうか。

**答** 各道路の「期成会」とともに県へも強く要望していく。

## 期待膨らむ工場移転

**問** 大和ハウス工場移転の波及効果、当市への影響をどう認識するか。新たな課題は生じないか。

**答** 期待の膨らむ話題である。3月から従業員募集、食堂など関連施設の増設もあると聞く。税収の増加、雇用・転入など期待が高まる。地域の交通、情報網など、立地基盤にも十分連絡調整をして地域発展に努力したい。



大和ハウスの工場（多賀）

## 問 障害者自立支援法 どのように取り組んでいくのか

**答** 障害者自立支援審査会を立ち上げ透明化を図る



松田 勲議員

指定相談支援事業者等への委託もあわせて考えている。

新体系で新たに導入される手話通訳とか窓口サービスでの派遣制度等については、利用者、事業者、事業内容など十分に検討し、必要性の高いものから順次事業化を図っていききたい。

また、窓口での手話は、他の市でも行っている。なので、どうやっていくかというところを今後研究しながら、できるだけやっていきたいと考えている。

**問** 聴覚の不自由な方にとって手話通訳者は、本当に手足の「一部だ」と思う。1割負担になれば、頼みたくても頼めない状況になる。

養成講座を設け、手話のできる方をまず増やし、派遣制度も設けるべきではないか。

**答** 今年手話の講習会を開設する予算を障害者福祉費の研修費として計上している。地域で手話ができる方を増やし、活躍していたできるようにしていきたい。できるだけ多くの方の参加を期待している。

**問** 10月から始まる新しいサービス体系は、市として具体的に考えているのか。

例えば、聴覚障害者のために手話通訳の窓口サービスや派遣制度を市として行うべきだと思うがどうか。

また、自立や支援のための窓口を本庁や各支所に設けるべきではないか。

**答** 相談支援業務は、市役所並びに各支所の窓口での対応もするが、幅広く専門スタッフの調った



手話で窓口対応する職員

**問** AED設置を  
どのように進めるのか

**答** 早急に中学校へ  
導入配置する



井上稔朗議員

スポーツ団体の遠征への貸出制度を検討できないか。

**答** 新しい視点での提案として検討する。

**産業振興への  
取り組みは**

**問** 市として産学官の連携にどう取り組むのか。  
市のサポート体制はあるのか。

**答** 中小企業のニーズを十分調査し、市の支援策を協議していく。サポート体制も分かりやすく効果的な体制整備をする。

**問** 優良企業の誘致を狙う地域間競争は激化している。  
市として進出企業との関係強化にどう取り組んでいくのか。

**答** 教育委員会でAEDを保有し、市内で開催されるスポーツ大会や、ス

**問** 心臓病（心室細動）による突然死を防ぐ自動体外式除細動器（AED）は、現在のところ市の施設に配置されていない。  
公共施設、特に学校やスポーツ施設への配置をどのように進めるのか。

**答** まずスポーツ活動の多い中学校への導入配置を進める。

**問** 教育委員会でAEDを保有し、市内で開催されるスポーツ大会や、ス

**答** 行政と立地企業との情報交換、立地企業間の人・物・情報の交換が重要である。熊山工業団地では、企業連絡会を設けている。他の地域でも企業との関係強化を図る方を検討する。

**問** 企業誘致や産業振興全体を推進するセクションを設置すべきではないか。

**答** 企業誘致、商工業に関する施策を効率的・効果的に推進するため、今後、組織・機構の整備にできるだけ早い時期に取り組む。



AED

**問** 学校給食での  
地産地消の取り組みは

**答** 18年度で  
研究会を立ち上げる



小引美次議員

**問** 地元の理解を得て、今回赤坂学校給食センターを、山陽学校給食センターへ統合されることになり、ハード面では合併効果が大きく前進している。

**答** 献立については、地場産物を生かした「ふるさと給食」を実施している。5名の学校栄養士が毎月定期的集まって、共通の献立表を作成して、大体、月の半数ぐらいが市内で統一されている。大量仕入れについては、地元小売業者の調整という課題があるが検討したい。

**問** 保護者の役に立つと考える。それによって市の基幹産業である農業の活性化並びに地産地消が推進され、旬のおいしい安全な食材も確保されるのではないかと考える。

**答** 市内給食センターの献立表の統一並びに食材の一括仕入れについてはどうか。

**問** 市の農産物の生産時期に対応した献立表の作成指導をしてはどうか。

**答** 献立については、地場産物を生かした「ふるさと給食」を実施している。5名の学校栄養士が毎月定期的集まって、共通の献立表を作成して、大体、月の半数ぐらいが市内で統一されている。大量仕入れについては、地元小売業者の調整という課題があるが検討したい。

**問** 一括仕入れについても、地元業者、そして生産組合、JAあかいわ等と調整を図る。

**答** 昨年施行された、食育基本法に基づいて食育基本計画案がまとめられ、地産地消の比率を30

**問** 一括仕入れについても、地元業者、そして生産組合、JAあかいわ等と調整を図る。

**答** 昨年施行された、食育基本法に基づいて食育基本計画案がまとめられ、地産地消の比率を30

**問** 一括仕入れについても、地元業者、そして生産組合、JAあかいわ等と調整を図る。



小学校の給食風景

**問** 将来を見据えたまちづくりをすべきではないか

**答** 行財政改革に取り組み財政の健全化を図る



小倉 博議員

償還も始まり、財政が圧迫されるのは必死である。合併の負け組にならないためにも、将来を見据えた財政計画を持ったまちづくりが必要だと思っております。

**問** 18年度の市の当初予算は、新市建設計画に沿った大型事業として、新図書館建設やグラウンドゴルフ場整備が始動したことで予算額が膨らんできたことはわかるが、市民の皆さんに理解していただくための理由付けが必要ではないか。

特別債という有利な国の財政支援もあるが、有効に運用しなければ将来はないかもしれない。インフラ整備による起債の

**答** 地方交付税は削減傾向にあり、固定経費の負担や下水道整備等による市債の償還も平成25年前後にはピークに達する。そうなれば、一般会計からの繰り入れの増額を余儀なくされる。財政調整基金等の残高を考慮しながら、今後一層の行財政改革に努め、財政の健全化を図りたい。

後世に伝えるため文化財の整備を

**問** 備前国分寺跡地や両宮山古墳をはじめとして、旧4町には残すべき文化財が数多くある。

整備に向けた具体的計画はあるのか。また、ソフト面の充実を図りながら観光振興にも生かしてはどうか。

**答** 備前国分寺跡地については、18年に基本計画、19年に実施計画、20年から順次保存整備を行う。市内の国・県指定の史跡についてもさらに周知と観光等への活用に努めていきたい。



両宮山古墳 (高屋・和田・穂崎)

**問** 山陽郷土資料館には、山陽地域から出土した貴重な遺物が多数展示されている。市内には、他にも地域ごとに古い郷土資料を展示してあるが、山陽郷土資料館には、鏡、陶器など、年代の古いものが多く、種類も多い。教科書や写真では味わえない迫力を持つ

**問** 山陽郷土資料館 歴史学習に活用を

**答** 郷土を学ぶ上で重要 市内全域の利用に努める



下村 健議員

ない迫力を持つている。小学校の高学年や、中学校の生徒の歴史学習にぜひ見せてほしい。

地域ごとに展示されている民具や農具、遺物などは、各校とも活用している。加えて山陽郷土資料館を見学して、教科書を理解する副教材としてのみならず、住んでいる赤磐市の古い歴史に関心を持ってもらいたい。

交通手段としてのバス利用も含めて、市内の各学校が大いに活用できるよう、教育施策の一つとして取り組んではどうか。

**答** 郷土の文化財を身近な教材として活用することは、郷土を学ぶ上で実に有効である。文化財保護の精神を涵養することにもつながり教育上とても重要である。

山陽郷土資料館には、数多くの資料が展示、収



山陽郷土資料館展示物

蔵されており、古代吉備の歴史を知る上で欠く事のできない重要な資料である。

本年度の市内の小学校の利用は4校である。他に中学生の職場体験学習利用や、夏休みの宿題や学習のために少人数での利用がある。

校外学習に際しては、市有のバスを利用したい。教職員への情報提供、学校用パンフレットも考える。学芸員も配置されており、市内全域の学校から利用してもらえるよう努める。

## 問 ニート・フリーターの就職支援はしないのか

答

就業機会の平等の確保・就業への再挑戦などの環境整備に努める

問 国勢調査に基づく家計調査などによって、市独自でジニ係数の指標を出しているか。

答 経済格差が拡大しているといわれているがどのように考えるか。また、地域経済面から格差拡大にどう取り組むのか。

答 格差を生む原因にニート・フリーターの存在があるが、彼らの就職支援に取り組む考えはないか。

答 市としてのジニ係数の指標は出していない。厚生労働省の調査数値によるとジニ係数はなだらかに上昇している。

答 経済格差が教育・健康面などに影響が出ていることを遺憾に思っている。そういう状況を真摯に受け止め、地域の個性や可能性を伸ばすため産業の競争力強化や地域社会の発展を促進しながら、若



岡崎達義議員

者をはじめとする市民への就業機会の平等を確保するとともに、就業への再挑戦が可能となるような体制・環境を整備していく。また、雇用対策関係団体との連携強化、積極的な情報提供などにより格差解消を図るとともに、今後、地域を支える若者の就業支援に努めていきたい。

## 一口メモ

### ジニ係数

所得などの分布の不平等度を示す数値。0から1までの値をとり、0に近いほど分布が均等であることを示す。この統計から算出する方で数値や増減の傾向は大きく異なる。所得再分配調査（厚生労働省）のデータによるジニ係数は90年代後半から上昇傾向を強めた。

## 問 ごみ処理施設は広域化ではなく独自でやるべきではないか

答 独自の事業実施は無理  
広域・総合的な施設に



川澄章子議員

グラウンドゴルフ場建設は低額に抑える検討を

問 合併によって住民は負担増や増税になっている中で、500人足らずのゴルフ人口に対して、巨額で維持費や人口減少傾向も考えて、若者のバスケットやスケボーができるスペースも取り入れるなど見直す余地はあるか。

答 桜が丘清掃センターの統合に伴い、覚書に定められ早期実現に向けて推進している。完成後のコストも最小限になるよう設計作業をしている。建設費削減に向けて協議して進めていきたい。

市長は給料の引き下げを  
決断せよ

問 市長や助役等は11人から3人に、議員は58人から26人に減ったのに合併効果は46%にしかならない。4町合併なら4分の1、せめて3分の1の33%程度に減額が必要ではないか。給与カットの考えはないか。

答 報酬審議会の答申も尊重しながら人に言われなくても実施する。言われて実施するものではないので、今後は自ら判断したい。



グラウンドゴルフプレー風景

**問** 市独自で  
35人学級の実現を

**答** 県の「小一グッドスタート  
事業」で支援員を配置



福木京子議員

市独自では難しい。県の小一グッドスタート事業（30人以上の学級に支援員が配置される）で、5つの学級が対象となり支援員を配置している。

**市内の魅力を知ってもらう施策を**

**問** 市内の魅力を知ってもらうために、観光スポットを案内する体験ツアーなどを実施し、まちづくりにかしはどうか。

**答** 商工会が昨年10月実施した、郷土のよさを再確認していただく機会として必要と思っ

ている。今後、商工会や観光協会と協議し取り組む。

**問** 行き届いた教育には少人数学級が非常に大切だ。小一・一年生で35人以上の現状はどうか。

**答** 国の方でも実現可能な方向で議論が進んでいるので、ぜひ市独自で35人学級を実現していくべきだと思ふがどうか。

**答** 新一年生の35人以上の学級数は、山陽西小2つ、山陽北小2つ、二年生は山陽小2つ、山陽西小2つ、山陽北小2つである。

**公共事業における  
PFI方式は慎重に**

**問** PFI方式は、バブル経済崩壊後第三セクターが行き詰まり、その欠点を補ったものとして登場した。メリット、デメリット、地域経済と住民生活への影響はどうなるかなど慎重に検討すべきではないか。

**答** PFI事業のメリット、デメリットなど総合的に研究しながら、民間のノウハウもいかし、今後のハード事業について慎重に検討していく。



小1グッドスタート事業

**問** 生活排水溝の  
土砂の捨て場の確保について

**答** 環境面から  
今後検討する

**問** 地域の環境整備で、春、秋に行われる生活排水溝の土砂の捨て場がなく困っている地域があると聞いている。市が責任を持って場所の確保をすべきではないか。

**答** 清掃に伴い排出された土砂等については、従来の処理方法で対応をお

願したい。

なお、環境面から地区の環境衛生活動に対しては、補助金制度があり、この補助金で対応されるのも一つの方法である。

場所の確保については、設置場所や収集方法等課題もあるもので、今後検討を進める。



農業用水路（河本）

**問** 耕作放棄地の現状と、回復・活用の具体的な施策はどうか。

**答** 平成18年度に、市内の農家を対象にアンケートを実施する。

一方、国の農政の動向や、農家の意見など参考にして検討したい。

施策の検討には時間が要するが、集落営農組織の育成を中心に取り組んでいきたい。

**問** 市の臨時職員の現状はどうか。

解雇によるトラブルなどあるのか。

また、賞金・退職金についてはどうか。

**答** 市の臨時的任用職員取扱要綱に基づき任用している。人数では、市長部局で84名、教育委員会部局で45名、計129名である。勤務時間・賞金・休暇など勤務条件について、雇用契約を結ぶ際に十分意思の疎通が図られていると考えている。退職金については支給していない。



藤田圭右議員



双葉幼稚園（山陽3丁目）

## 問 アスベスト関連の対策はどうか

答 できるものから進めている



北川勝義議員

**問** ①門前浄化センター ②双葉幼稚園のアスベスト対策 ③上水道石綿管の改善計画と実施はどうか。  
**答** ①アスベスト除去工事は3月下旬完了する。②18年度早期に撤去工事が実施できるよう調整中。③平成17年度に高屋二井間と正崎高屋間を発注し、残りは18年度予算に計上している。

**問** 旧山陽町で計画のあった公共墓地整備事業は用地取得後に休止となっている。今度どうか。  
**答** 総合計画・建設計画を踏まえ、18年度にアンケート調査を実施し、墓地整備計画を検討したい。

**問** 法事会館を吉井地域と山陽地域の2カ所に建設してはどうか。  
**答** 経営・運営方法等十分に調査検討する。

**問** ①荒廃農地等の解消 ②生産物の加工品や野菜等の販売ができる道の駅の計画 ③学校給食への地産地消の活用 ④子どもたちに農業体験を実施し農業の大切さを理解する学習はどうか。  
**答** ①農業公社の取り組みは難しい。集落営農は農家を対象にアンケートを実施し、結果を踏まえモデル事業として2、3地区を取り組みたい。②プロジェクトチームを設

置する。③地産地消研究会で学校給食を検討し、18年度で取り組みたい。④学校及び教育委員会と協議検討したい。

**問** 備作高校がなくなるが今後の計画はどうか。  
**答** 周辺の市町の関係者による振興協議会を18年度に立ち上げ、整備方針を協議し、それに沿って推進したい。

**問** ごみ広域化の現状と今後はどうか。  
**答** 赤磐市を中心として北部衛生施設組合を含めた備前市、新和気町の枠組みを進める。

**問** コミュニティハウスなどの水道料金を無料にしてはどうか。  
**答** 当面は減免する。

**問** 中学校及び市民公募による体験議会を開催してはどうか。  
**答** 慎重に検討したい。

## 議会を傍聴しませんか

本会議は、一般に公開され、どなたでも自由に傍聴することができます。市政の動きや議員活動を知るためにもぜひ傍聴してください(定員30人)。平成17年度は228人(延べ人数)の方が傍聴に来られました。

### ●平成17年度赤磐市議会本会議一般傍聴者数

年月日	種別	主な内容	傍聴者数	年月日	種別	主な内容	傍聴者数
平成17年5月10日	平成17年5月第1回臨時会	議長・副議長選挙	15人	10月4日	平成17年9月第4回定例会	委員長報告、採決	5人
5月12日	〃	議案上程	1人	11月28日	平成17年12月第5回定例会	議案上程	6人
5月17日	〃	議案質疑	12人	11月29日	〃	議案上程	2人
5月19日	〃	採決	5人	12月1日	〃	一般質問	21人
6月8日	平成17年6月第2回定例会	議案上程	12人	12月2日	〃	一般質問	18人
6月13日	〃	一般質問	23人	12月7日	〃	議案質疑	7人
6月14日	〃	一般質問	10人	12月22日	〃	委員長報告、採決	2人
6月17日	〃	議案質疑	12人	平成18年2月27日	平成18年3月第1回定例会	議案上程	2人
6月28日	〃	委員長報告、採決	9人	3月2日	〃	一般質問	10人
7月27日	平成17年7月第3回臨時会	助役の選任同意	2人	3月3日	〃	一般質問	3人
9月6日	平成17年9月第4回定例会	議案上程	3人	3月6日	〃	一般質問	11人
9月13日	〃	一般質問	16人	3月7日	〃	議案質疑	1人
9月14日	〃	一般質問	10人	3月8日	〃	議案質疑	1人
9月20日	〃	議案質疑	2人	3月22日	〃	委員長報告、採決	7人

# あかいは由来記

赤磐市が発足して1年、明治33年4月1日に赤坂、磐梨の旧両郡が合併して、はじめて「赤磐」の名が登場、105年を経過したことになる。

赤坂・磐梨の地は、古来から住みよさの条件に恵まれ、全域に先栄の跡も多数あり、豊かな歴史文化の上に赤磐市の誕生であった。

この際、少し名前のルーツを追ってみたい。



両郡山古墳周辺 (山麓地域)

さて、「赤・磐」の由来を考えると、1200年を超える歳月の流れがある。まず、赤坂は、純日本紀の「養老五分備前国邑久赤坂二郡之郷、始置藤原郡」との記述が最初となる。1285年前のことである。地名の起源については、山陽地域の穂崎・熊崎・神田・斗有・嶋前に小字として赤坂が残る。赤磐郡誌の編者はこのうち穂崎説を有力視している。ちなみに当地は、細文・弥生時代、白鳳・奈良へと続く繁栄の中心と考え、養老年間の頃(720年頃)にはその地名を郡名にと推定している。

馬屋・岩田など、周辺には他に類例を見ない遺跡や古墳群・石室等が存在。さらに巨大な両宮山古墳と備前国分寺が立地するのである。

歴史の流れの中、繁栄の地の名をもって郡名の起源としたことに、違和感はないように思われる。東備地域には、

磐梨の起源については延暦7年6月(778年)、和氣清麻呂の進言による記述が最初。《当地は和氣郡に属するが、郡治は藤野郷で中に大河(吉井川)があつて難儀である》

「河西建磐梨郡許之」とか、今から1218年前のことになる。

地名の磐梨は、石无・石無・石成・石生などの文字が当てられている。

巨石の露出する山々が連なり、これと吉井川が創造した地勢から見た地名を起源としたのではなからうか。大河を挟んで当地の山は明らかに「岩がない」つまり「アワナシ」。



吉井川周辺 (山麓地域)

石を積んだ熊山遺跡もあり、名の起源も実に興味深いものである。赤磐市も満1歳となり、歩みはじめたばかりであるが、「温故知新」さらなる発展を期したいものである。

## 6月定例会のお知らせ

次回6月定例会は、6月8日から6月28日まで、21日間の会期で開催予定です。

多くの皆様の傍聴を

お待ちしております。

(参考)

- ・ 岡山県風土記
- ・ 赤磐郡誌
- ・ 岡山県政史
- 他

## あ と が き

赤磐市の誕生から1年、予算審査が中心の3月議会でした。図書館・グラウンドゴルフ場など多くのハード事業や、介護保険制度の改正など市民生活に直接関わる議案もあり、どの常任委員会も白熱した質疑を繰り広げました。

議会終了から編集委員は、もうひと仕事、議事録の粗原稿をにらみながら記事の作成から写真・レイアウトなど少しでも読みやすい市議会だよりにとがんばりました。お気付きの点がございましたら、ぜひご一報ください。

### 議会広報編集特別委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 委員長  | 井上 稔朗 |
| 副委員長 | 小田百合子 |
| 委員   | 武本 一郎 |
| 委員   | 藤田 圭右 |
| 委員   | 羽原 達義 |
| 委員   | 岡崎 達義 |
| 委員   | 山下 浩史 |
| 委員   | 松田 勲  |